

令和6年度 野菜類耕種的・物理的防除、発生予察に基づく防除

◇ 野菜共通

JAI山形おきたま 野菜振興会

対象病害虫名	防除方法				
病害虫全般	<ol style="list-style-type: none"> ほ場周辺を含め、除草に努める。 連作をしない。 				
病害全般	<ol style="list-style-type: none"> 高畦栽培を行うなど、圃場の排水対策を徹底する。 施設栽培では、過湿を防ぐため換気を図る。 				
立枯病、青枯病などの土壌病害	<ol style="list-style-type: none"> 土壌を蒸気消毒する。 				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病害虫名</th> <th>消毒の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>立枯病、青枯病等の土壌病害</td> <td>60℃で30分間又は80℃以上10～15分間均一に行う。</td> </tr> </tbody> </table>	病害虫名	消毒の方法	立枯病、青枯病等の土壌病害	60℃で30分間又は80℃以上10～15分間均一に行う。
	病害虫名	消毒の方法			
	立枯病、青枯病等の土壌病害	60℃で30分間又は80℃以上10～15分間均一に行う。			
<ol style="list-style-type: none"> 土壌を太陽熱消毒する。 ハウスでは、7月中旬～8月下旬の夏期高温時を利用して、約1ヶ月間ハウスを密閉して高温状態を保ち土壌中の線虫密度を低下させることができる。 また、雑草の防除や土壌病害の抑制にも効果がみられる。 					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病害虫名</th> <th>消毒の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>立枯病、青枯病等の土壌病害</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 有機物(5～10cmに切断したわら等)10a当たり1～2tと石灰窒素10a当たり100kgを散布して、耕土層によく混ぜるようにすき込む。 高さ30cm、幅60～70cmの畦を立て、透明のビニール等で地表全面を被覆する。 ビニールマルチ下の畦間に灌水し、一時湛水状態にする。 ハウスを密閉する。ハウスの破損箇所は補修し、出入り口の密閉度をよくする。 処理期間は20～30日とする。処理後はハウスを開放し、ビニールを除去する。 </td> </tr> </tbody> </table>	病害虫名	消毒の方法	立枯病、青枯病等の土壌病害	<ol style="list-style-type: none"> 有機物(5～10cmに切断したわら等)10a当たり1～2tと石灰窒素10a当たり100kgを散布して、耕土層によく混ぜるようにすき込む。 高さ30cm、幅60～70cmの畦を立て、透明のビニール等で地表全面を被覆する。 ビニールマルチ下の畦間に灌水し、一時湛水状態にする。 ハウスを密閉する。ハウスの破損箇所は補修し、出入り口の密閉度をよくする。 処理期間は20～30日とする。処理後はハウスを開放し、ビニールを除去する。 	
病害虫名	消毒の方法				
立枯病、青枯病等の土壌病害	<ol style="list-style-type: none"> 有機物(5～10cmに切断したわら等)10a当たり1～2tと石灰窒素10a当たり100kgを散布して、耕土層によく混ぜるようにすき込む。 高さ30cm、幅60～70cmの畦を立て、透明のビニール等で地表全面を被覆する。 ビニールマルチ下の畦間に灌水し、一時湛水状態にする。 ハウスを密閉する。ハウスの破損箇所は補修し、出入り口の密閉度をよくする。 処理期間は20～30日とする。処理後はハウスを開放し、ビニールを除去する。 				
ウリ科 ホモプシス 根腐病	<ul style="list-style-type: none"> きゅうりなどのウリ科に発生し、生育期間中に萎れがみられ、被害が進むと枯死する。近年、拡大している土壌病害で台木品種では対応できない。 感染圃場で使用した管理作業機・支柱等の資材・長靴に付着した土壌に含まれる病原菌等によって他の圃場に伝染する。 対策は露地の場合はクロロピクリン剤による土壌消毒・圃場移転、ハウスの場合は太陽熱消毒・土壌還元消毒・クロロピクリン剤による土壌消毒・圃場移転等がある。 最も効果的な対策は、『置賜版きゅうり栽培GAPチェックシート』を活用し、圃場衛生管理の徹底、病原菌の侵入と拡散防止に努めることである。 				
ウイルス性病害	<ol style="list-style-type: none"> 発病株は早期に抜取り、適切に処分する。 発病株に触れた手で健全株に触れないようにする。 雑草等に越冬するアブラムシ類(ウイルス保毒)は、ウイルス病(モザイク病)を媒介するため、栽培終了後及び定植前に圃場周辺の除草管理を徹底する。 				
菌核病 灰色かび病	<ol style="list-style-type: none"> 過湿にならないようハウス内の換気を図る。 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もつてのほか」等】の栽培に適さない。) 発病部は見つけたい取り除き、圃場外に搬出し、適切に処分する。 				
チョウ目害虫	<p>◇ 物理的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設栽培では、出入り口や側面に寒冷紗を張る。 露地栽培では、飛来を防ぐため、寒冷紗による「うきがけ:スポーク支柱の上に被覆」や「べたがけ:作物に直接被覆(バオバオ・ラプシート等)」を行う。 秋冬どり野菜では、は種や定植時期を遅らせる。 				
	<p>◇ 薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 交信攪乱剤(性フェロモン剤)による防除 ※剤の設置前にフェロモントラップを設置して発生の有無を確認する。 				
アブラムシ類	<ol style="list-style-type: none"> 有翅虫の飛来を抑制するため、シルバーストライプマルチを使用する。 施設栽培では、出入り口や側面に寒冷紗を張る。 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もつてのほか」等】の栽培に適さない。) 				
コナジラミ類	<ol style="list-style-type: none"> 施設栽培では、出入り口や側面に寒冷紗を張る。 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もつてのほか」等】の栽培に適さない。) 				
アザミウマ類	<p>◇ 耕種的防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設では成虫の侵入を防止するため開口部に防虫ネット(白色又は赤色、1mm目以下)を設置する。 成虫を絶食状態にすると数日で死滅するので、施設では収穫終了後完全に密閉し、更に作物及び雑草を枯死させる。 露地の発生ほ場では、収穫が終了したら被害植物は適切に処分する。 ほ場及びほ場周辺の雑草にも寄生するので、除草を徹底する。 近紫外線除去フィルムを使用する。(受粉用の訪花昆虫を利用する場合、また、紫色の色素を作る作物【なすや食用菊「もつてのほか」等】の栽培に適さない。) 				
	<p>◇ 発生予察に基づく防除</p> <p>ほ場内外の作物体付近に粘着トラップを設置し、対象病害虫の発生時期や発生量(飛来・侵入・増殖の状況)を早期に把握し、低密度時に防除を徹底する。 ※アブラムシ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類は黄色、アザミウマ類は青色に誘引される。</p>				
土壌線虫	<p>◇ 耕種的防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 連作を避ける。 抵抗性品種を作付けする。 ネグサレセンチュウの発生しているほ場では、マリーゴールド(フレンチ種またはアフリカントール)を3ヶ月以上栽培(輪作)し、すき込む。 キタネグサレセンチュウはさいともとの輪作で密度を低下させることができる。 ネコブセンチュウの発生しているほ場では、マリーゴールド(アフリカントール)やクロタラリア、ヘイオーツを3ヶ月以上栽培し、すき込む。 早生のえだまめでダイズシストセンチュウが発生している場合は収穫後にクロタラリアを70日以上栽培し、すき込む。 なお、十分な生育量が確保できるよう、8月中旬までに播種を行う。 				
	<p>◇ 物理的防除</p> <p>上記の立枯病、青枯病等の土壌病害の項「2. 土壌を太陽熱消毒する」参照。</p>				
タネバエ	<p>魚かす、油かす、米ぬか、牛糞、鶏糞、堆肥等、有機物を施用するとタネバエが発生しやすくなる。特に、未熟なものは完熟したものに比べ発生が多くなる。 有機物を施用する場合は、早めに施用してすき込むとともに作物の出芽を促すため砕土を丁寧に行う。</p>				
ネキリムシ類	<p>雑草への産卵を抑えるため、圃場周辺も含め、は種前・定植前から除草を徹底する。</p>				
ナメクジ類 カタツムリ類	<p>◇ 耕種的防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 湿潤な場所に発生が多いので、ほ場の排水を良くし、ほ場の環境を改善する。 餌となる作物残渣や雑草などをほ場内から除去し、清潔にする。 石灰の不足した酸性土壌に発生が多いので、定植前に石灰資材を施用し、中性からやや酸性の土壌に改良する。 施設栽培では、夏季に太陽熱消毒を行うことによりハウス内のナメクジ類を完全に防除できる。 				

【令和5年12月8日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 害獣（野鼠・モグラ・イノシシ）対策について

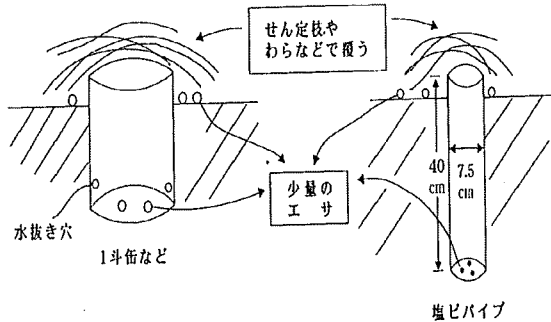
JA山形おきたま 野菜振興会

◆野鼠の防除

耕種的・物理的防除

秋季（根雪前）、春季、夏季に、

- 野鼠が侵入・定着しないよう、ほ場や周辺の清掃・除草や隠れ場所となるような資材の撤去を行う。
- 野鼠の増殖を抑制するため、ほ場内に餌となる農作物残渣（アスパラガスの茎葉など）を残さない。
- ネズミとり器や粘着板を利用する。この際、鼠は暗所を好むこと、また壁などに沿って移動する習性を利用し、ネズミとり器は壁面に肥料袋などで覆って設置する。また、ネズミとり器を設置後数日は、ネズミとり器の周辺に餌をまき警戒心を与えないように配慮する。
- 簡易なトラップを利用した駆除も周年駆除法として有効。
10a当たり5～6か所に、1斗缶や、塩ビパイプ（直径7.5cm×40cm）等を上部1～2cm残して地中に埋め、上部の穴をせん定枝やわらで広く覆い、時々捕殺を確認する。（下図参照）



ハウス内作物の野鼠対策

- 野鼠が侵入・定着しないよう、ハウス内には隠れ場所となるような資材を置かない。
- ハウスの外縁部は内側、外側とも踏み固めておく。
- 野鼠が侵入した場合は、鼠穴や通路（作物の残渣を引き込んだり糞が見られる場所）に金網製の「ネズミとり器」や「粘着板」を置いて捕殺する。
※ ネズミは暗い場所に落ち着き、壁などに沿って移動する習性があるため、捕獲器は、壁面に肥料袋などで覆っておく。捕獲器の設置後数日は捕獲器周辺に餌をまいて捕獲器への警戒心を与えないように配慮する。発生が多い場所では、周年設置して被害を防ぐことと、ハウス周辺の環境をきれいにし同時に防除対策も行う。

薬剤による防除 水田、畑地、果樹園、桑園は下記の薬剤により防除する。

- 農作物の少ない秋季および春季の防除を徹底する。
※ ペットや家畜への二次的な危害を防止するため、家畜施設や住宅地周辺では使用しない。

(1) リン化亜鉛剤

対象害獣	薬剤名	農薬の成分系	使用量	適用場所	使用方法
野ソ	強カラテミン（劇）	リン化亜鉛	1～2g（15～30粒）/ソ穴1ヶ所	農地 山林	ソ穴に1ヶ所当り1～2g（15～30粒）宛そのままあるいは小袋詰を投入する。
	Z・P 1.00	リン化亜鉛	50～200g/10a	農地 山林	本剤を3～5g紙包み、または、そのままソ穴に投入するか、10a当り10～40か所に適宜配置する。

(2) ダイファシン系粒剤

対象害獣	薬剤名	農薬の成分系	使用量	適用場所	使用方法
野ソ	ヤソチオン（劇）	ダイファシン	200～300g/10a	農地	本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰をソ穴に投入するか、野ソの通路に配置する。

◆モグラの防除

耕種的・物理的防除

- 振動を嫌う性質があるので、ほ場のところどころに風車を立て、その振動が地中に伝わるようにする。
- 周囲に深さ1m程度の溝を掘り、ほ場への侵入を防ぐ。
- トンネルの本道に罾を仕掛けて捕殺する。この場合、人のおいがつかないように素手では持たない。

◆イノシシ対策

イノシシを寄せ付けない環境作りと物理的防除

- ほ場周辺や耕作放棄地の除草を定期的に行い、イノシシの隠れ家となるような場所を作らない。
- イノシシの餌となる農作物残渣（収穫残渣や間引いた株など）をほ場内に残さない。
※ 収穫せずに放置された果樹は、イノシシの格好のエサ場となることから、地域の合意の上で可能な限り伐採する。
- 防護柵（電気柵等）を設置し、イノシシの侵入防止に努める。（電気柵は感電防止の為、人が安易に立ち入らない場所に設置し、危険表示板を複数設置する。）

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 害虫（ナメクジ類・カタツムリ類）・土壌線虫・雑草の防除について

JA山形おきたま 野菜振興会

◆ナメクジ類・カタツムリ類の防除

耕種的・物理的防除

- 湿潤な場所に発生が多いので、ほ場の排水を良くし、ほ場の環境を改善する。
- 餌となる作物残渣や雑草などをほ場内から除去し、清潔にする。
- 施設栽培では、夏季に太陽熱消毒を行うことによりハウス内のナメクジ類を完全に防除できる。

薬剤による防除

対象病害虫	薬剤名	対象作物名	使用量・希釈倍数	適用場所	使用方法	使用回数
カタツムリ類、ナメクジ類	スラゴ	カタツムリ類・ナメクジ類が加害する農作物等	1g～5g/m ²	温室、ハウス、圃場、花壇	ナメクジ類及びカタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置する。	—

※ 注意事項 連続降雨などで多量に水分を含むと効果が落ちるので、晴れ間を狙って防除する。

◆土壌線虫の防除

各薬剤の使用方法

ハウス内で使用する場合は、処理後ハウスを開放し、ガス(薬剤)がハウス内に残らないよう十分注意する。

	薬剤名	使用時期	対象作物名	使用量・希釈倍数 使用方法	使用方法
1	ネマキック粒剤	定植前	きゅうり トマト・ミニトマト なす・メロン	15～20kg/10a 全面土壌混和	1. 定植前に散布する。(詳しくは各作物ごとの使用方法を確認する。) 2. 散布後、表層から20cm程度の深さまで混和ムラがないようにていねいに土壌と混和する。 3. 土壌が乾燥している時は、使用しない。
2	ガードホープ液剤(劇)	収穫28日前まで 収穫前日まで	メロン トマト・ミニトマト	4000倍 2L/m ² 土壌灌注	1. 処理時にネコブが着生している根は回復しないので、発生初期に使用する。 2. 処理後根系への薬剤の移動を促すため、生育期に使用する場合は早い時期に1㎡当たり5～20Lの水をかん注する。 3. 作物の葉にかからないように散布する。(詳しくは各作物ごとの使用方法を確認する。)

◆雑草の防除

耕種的・物理的防除

- は種(定植)前に間隔をあけて2回耕起することにより雑草の発生を軽減できる。
これは1度軽く耕起することで一斉に雑草を発芽させ、これをは種前にもう一度耕起してすきこむ方法である。
- 水田転作畑では、いったん水田に戻し田畑輪換を行う。
- 中耕(培土)を行う。
- 土壌の蒸気消毒や太陽熱消毒を行う。

野菜に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

- 薬量並びに散布面積は正確に秤量、測定する。
- 除草剤を薄める水の量は、噴霧機使用の場合は10a当たり100リットルが目安となるが、必ず登録内容を確認して使用する。
- 薬効は土壌水分との関連が深く、乾燥状態では効果が低い。なお、散布直後の降雨は除草効果を低くするばかりではなく、薬害を起こす危険性もあるので降雨が予想される場合は使用を避ける。
- 土壌処理剤は土壌処理後3～4週間は土壌を攪拌しない方が効果期間が長い。
- 散布機具及び容器は専用のものを使用し、使用後は石鹸水で十分洗う。
- 催芽種子を播きつけた場合は、薬害の恐れがあるので除草剤の使用は避ける。
- 水田転作畑での使用は、土塊をよく碎き土壌表面を均一にする。
- ハウス内での除草剤の使用は薬害が発生しやすいので避ける。
- 除草剤だけでは完全な除草効果は期待できないので、中耕土寄せ・敷ワラ・ポリマルチ等の総合的な対策を行うことが重要である。
- 散布に使用した器具及び容器を洗った水や残液は、川や池等に入らないように注意する。
- はくさい・ほうれんそう・だいこん等では、除草剤を使用した場合は間引いたものを食用にしない。

カソロン粒剤使用跡地の薬害に注意

- カソロン粒剤を使用した圃地では野菜(すいか・かぼちゃ・きく等)は作付けしない。(葉枯れ、生育阻害、発芽阻害、落葉の恐れがある。)

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 夏秋きゅうり 病害虫防除基準

JA山形おきたま きゅうり振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 回数	使用 回数	注意事項		
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注	は移植から 2~3葉期まで	○	5回	2ℓ/㎡		
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	1g/株 株元処理	育苗期 後半	—	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること		
定植時	アブラムシ類	ペリマークSC ※1	28	400株あたり 25mℓ灌注	育苗期 後半~ 定植当日	—	1回	散布量は、400株あたり 2~20ℓ (1株あたり 5~50mℓ) 育苗期及び定植期の灌注は合計1回とする。 ペリマークSC・ベネビアOD・プレバソフロアブルは同一成分とみなし、抵抗 性害虫出現防止のため連用を避ける。		
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	—	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること		
	斑点細菌病	オリゼメート粒剤	P2	5g/株 植穴土壌混和	定植時	○	1回	薬害防止のため、軟弱徒長苗には使用しないこと 本剤を処理する場合は植穴の土壌と十分混和すること		
生育期	つる枯病	トップジンMペースト ※2	1	原液	塗布	発病初期	●	5回	17~18℃位の低温多雨 時の発生が多くなる。	
	黒星病	ジマンダイセン水和剤 ※6	M3	600倍	散布	前日	○	3回		疫病・褐斑病・炭疽病・べと病にも適用あり
		ベンレート水和剤	1	2000倍			●	3回		菌核病・炭疽病にも適用あり
		スコア顆粒水和剤	3	2000倍			●	3回	うどんこ病にも適用あり	
	べと病	ソーベックエニベル顆粒水和剤 ※6	49・M3	750倍	散布	前日	○	2回	肥切れ・草勢の衰えた時 に発生しやすい 高温多湿条件下で発生す るので、予防防除を徹底 する。	
		ダコニール1000 ※3	M5	1000倍			○	12回		炭疽病・うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ドーシャスフロアブル ※3	21・M5	1000倍			○	4回		炭疽病・うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		カーニバル水和剤 ※3	40・M5	1000倍			●	3回		炭疽病・うどんこ病・褐斑病にも適用あり
		プロポーズ顆粒水和剤 ※3 ※4	40・M5	1000倍			●	3回		うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ジャストフィットフロアブル ※4	43・40	500倍			●	3回		
	うどんこ病	ファンベル顆粒水和剤 ※5	M7・11	1000倍	散布	前日	●	3回	褐斑病・菌核病・黒星病・炭疽病にも適用あり	
		ラミック顆粒水和剤 ※5	M7・50	1000倍			●	3回	褐斑病にも適用あり	
		パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍			●	2回		
	斑点細菌病	ペフドー水和剤 ※5	M7・M1	500倍	散布	前日	○	7回	うどんこ病・炭疽病・べと病・褐斑病・黒星病・菌核病(1000倍)にも適用あり	
		ドキリンフロアブル	M1	1000倍			○	5回	炭疽病・べと病にも適用あり	
褐斑病	カスミンボルドー	24・M1	1000倍	散布	前日	●	5回	うどんこ病・べと病にも適用あり		
	カンタスドライフロアブル	7	1500倍			●	3回	菌核病にも適用あり 農着剤を加用しない。		
褐斑病・炭疽病	ケンジャフロアブル	7	1500倍	散布	前日	○	4回	うどんこ病・菌核病にも適用あり 同一成分とみなし、連用を避ける。		
	ダイアメリットDF ※5	M7・19	1000倍			●	2回	うどんこ病・菌核病にも適用あり 高温多湿条件下で発生するので、予防 防除を徹底する。		
	ゲッター水和剤 ※2	10・1	1500倍			●	5回	菌核病にも適用あり		
	オーソサイド水和剤80	M4	600倍			○	5回	べと病にも適用あり 育苗期に使用した場合、使用回数は4回まで		
アブラムシ類	ベネビアOD ※1	28	2000倍	散布	前日	—	3回	アザミウマ類・ハモグリバエ類・ウリノメイガにも適用あり ●単用散布する。 ベネビアOD・プレバソフロアブルは同一成分とみなし、抵抗性害虫出現防止 のため連用を避ける。		
	ダントツ水溶剤	4A	2000倍			—	3回	カメムシ類の適用あり		
	トランスフォームフロアブル	4C	2000倍			—	2回	アブラムシ類はウイルス病 を媒介するので初期防除 に努める。		
	コルト顆粒水和剤	9B	4000倍			—	3回			
	ウララDF	29	2000倍			—	3回			
ハダニ類	スターマイトフロアブル	25A	2000倍	散布	前日	—	1回	ハモグリバエ類にも適用あり 同一成分とみなし、連用を避ける。		
	カネマイトフロアブル	20B	1000倍			—	1回			
	コロマイト乳剤	6	1000倍			—	2回			
ミカンキイロアザミウマ	アグリメック (劇)	6	1000倍	散布	前日	—	2回	アザミウマ類にも適用あり		
	アードント水和剤	3A	1000倍			—	4回	ハダニ類・アブラムシ類にも適用あり		
アザミウマ類・ウリノメイガ	ハチハチ乳剤 (劇)	21A	1000倍	散布	前日	—	2回	アブラムシ類・ウリノメイガ・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり		
	グレーシア乳剤	30	2000倍			—	2回	ハモグリバエ類・ハスモントウ・ハダニ類にも適用あり		
	ディアナSC	5	2500倍			—	2回	ハモグリバエ類にも適用あり		
	プレオフロアブル	UN	1000倍			—	2回	ハモグリバエ類にも適用あり		
ウリノメイガ	プレバソフロアブル5	28	2000倍	散布	前日	—	3回	ハモグリバエ類にも適用あり ベネビアOD・プレバソフロアブルは同一成分とみなし、抵抗性害虫出現防止 のため連用を避ける。		

(○)予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※1 ペリマークSC、ベネビアODは同一成分(シアントラニリプロール)を含むため、総使用回数は4回以内とする。
 - ※2 トップジンMペースト、ゲッター水和剤は同一成分(チオファネートメチル)を含むため、総使用回数は6回以内とする。(但し、は種後は5回以内)
 - ※3 ダコニール1000、ドーシャスフロアブル、カーニバル水和剤、プロポーズ顆粒水和剤は同一成分(TPN)を含むため、総使用回数12回以内とする。
 - ※4 プロポーズ顆粒水和剤、ジャストフィットフロアブルは同一成分(ベンチアパリカルブイソプロピル)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
 - ※5 ファンベル顆粒水和剤、ラミック顆粒水和剤、ペフドー水和剤、ダイアメリットDFは同一成分(イミノクダジン)を含むため、総使用回数は7回以内とする。
 - ※6 ジマンダイセン水和剤、ソーベックエニベル顆粒水和剤は同一成分(マンゼブ)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
- ※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予察を実施し、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説明
ワイドコート	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り10mℓ (1万倍)	薬剤をムラなく広げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。雨前散布や保護殺菌剤散布に。
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬剤名	RACコード	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
クレマート乳剤	3	一年生雑草	10a当り200~400mℓ(水量100~150ℓ)	全面土壌散布	1回	定植前(雑草発生前)
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300~500mℓ(水量100~150ℓ)	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期 定植前又は畦間処理)

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 ハウスきゅうり 病害虫防除基準

JA山形おきたま きゅうり振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期(収穫まで)	効果	使用回数	注意事項	
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注	は種後 2~3葉期	○	5回	2ℓ/㎡	
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	1g/株 株元処理	育苗期 後半	—	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内	
育苗期 後半									
定植前	ネコブセンチュウ	ネマキック粒剤	1B	20kg/10a 全面土壌混和	定植前	—	1回	育苗期及び定植期の灌注は1回とする。 散布量は、400株あたり 2~20ℓ、1株あたり 5~50㎖	
定植時	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	—	1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること。	
		モスピラン粒剤	4A	1g/株 株元散布					
生育期	黒星病	ベフドー水和剤 ※1	M7・M1	500倍	散布	前日	○	7回	褐斑病・炭疽病・べと病・うどんこ病・斑点細菌病・灰色かび病・菌核病(1000倍散布)にも適用あり
		スコア顆粒水和剤	3	2000倍					
		ペンレート水和剤	1	2000倍					
	べと病	ソーベックエニベル顆粒水和剤 ※4	49・M3	750倍	散布	前日	○	2回	うどんこ病・褐斑病・黒星病・炭疽病・灰色かび病にも適用あり
		ダコニール1000 ※2	M5	1000倍					
		ランマンフロアブル ※3	21	1000倍					
		カーニバル水和剤 ※2	40・M5	1000倍					
		プロボース顆粒水和剤 ※2	40・M5	1000倍					
		ホライズンドライフロアブル	27・11	2500倍					
	褐斑病	ケンジャフロアブル	7	1500倍	散布	前日	○	4回	うどんこ病・菌核病・灰色かび病にも適用あり
		カンタスドライフロアブル	7	1500倍					
	褐斑病・炭疽病	ジマンダイセン水和剤 ※4	M3	600倍	散布	前日	○	3回	黒星病・斑点細菌病・べと病にも適用あり
		ベフドー水和剤 ※1	M7・M1	500倍					
		ドーシャスフロアブル ※2	21・M5	1000倍					
		ダイアメリットDF ※1	M7・19	1000倍					
		ゲッター水和剤 ※5	10・1	1500倍					
	うどんこ病	フルピカフロアブル	9	2000倍	散布	前日	○	4回	褐斑病・灰色かび病にも適用あり
		アフェットフロアブル	7	2000倍					
		ラミック顆粒水和剤 ※1	M7・50	1000倍					
		テーク水和剤 ※4	3・M3	600倍					
パンチョTF顆粒水和剤		U6・3	2000倍						
菌核病 灰色かび病	ファンベル顆粒水和剤 ※1	M7・11	1000倍	散布	前日	●	3回	うどんこ病・褐斑病・黒星病・炭疽病にも適用あり	
	ピクシオDF	17	2000倍						
	ゲッター水和剤 ※5	10・1	1500倍						
	スミブレンド水和剤 ※5	10・2	1500倍						
	スターマイトフロアブル	25A	2000倍						
ハダニ類	カネマイトフロアブル	20B	1000倍	散布	前日	—	1回		
	コロマイト乳剤	6	1000倍						
	アグリメック(劇)	6	1000倍						
	アグリメック(劇)	6	1000倍						
アブラムシ類 ミカンキイロアザミウマ	アーデント水和剤	3A	1000倍	散布	前日	—	4回	オンシツコナジラミ・ハダニ類にも適用あり	
アブラムシ類 コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	9B	5000倍	散布	前日	—	3回		
	ゴルト顆粒水和剤	9B	4000倍						
	ベストガード水溶剤	4A	1000倍						
	ウララDF	29	2000倍						
アザミウマ類 ウリノメイガ	ハチハチ乳剤(劇)	21A	1000倍	散布	前日	—	2回	コナジラミ類・アブラムシ類・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり	
	グレーシア乳剤	30	2000倍						
	ディアナSC	5	2500倍						
	プレオフロアブル	UN	1000倍						
ウリノメイガ	プレバソソフロアブル5	28	2000倍	散布	前日	—	3回	ハモグリバエ類にも適用あり	

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ベフドー水和剤、ダイアメリットDF、ラミック顆粒水和剤、ファンベル顆粒水和剤は同一成分(イミノクタジン)を含むため、総使用回数は7回以内とする。

※2 ダコニール1000、カーニバル水和剤、プロボース顆粒水和剤、ドーシャスフロアブルは同一成分(TPN)を含むため、総使用回数12回以内とする。

※3 ランマンフロアブル、ドーシャスフロアブルは同一成分(シアソファミド)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※4 ソーベックエニベル顆粒水和剤、ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分(マンゼブ)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※5 ゲッター水和剤、スミブレンド水和剤は同一成分(ジエトフェンカルブ)を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕理的・物理的防除を実施する。また発生予防を実施し、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説明
ワイドコート	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り10mℓ(1万倍)	薬剤をムラなく掛け落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多く固着性に優れる。
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬剤名	RACコード	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
クレマート乳剤	3	一年生雑草	10a当り200~400mℓ(水量100~150ℓ)	全面土壌散布	1回	定植前(雑草発生前)
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300~500mℓ(水量100~150ℓ)	雑草莖葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期 定植前又は畦間処理)

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 ハウス大玉トマト 病害虫防除基準

JA山形おきたま トマト振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果	使用回数	注意事項	
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	M4	800倍 灌注	は種後から 2~3葉期まで	○	5回	2ℓ/㎡	
	アザミウマ類	※ 生育期『オオタバコガ・トマトサビダニ・アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類』防除薬剤欄をご参照下さい。						黄化えそ病等 ウイルス病対策として実施する。	
育苗期 後半	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 トマトキバガ	ベリマークSC	28	25ml/400株 灌注	育苗期後半 ~定植当日	-	1回	<使用例> 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。	
定植前	土壌線虫	※ 8ページ『土壌線虫』防除らんをご参照下さい。							
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	-	1回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 マルハナバチ利用の場合は使用しない。	
生育期	疫病	ランマンフロアブル	21	1000倍	散布	前日	●	4回	
		ザンプロDMフロアブル	40・45	1500倍			●	3回	
	葉かび病 すすかび病	ダコニール1000 ※1	M5	1000倍	散布	前日	○	4回	うどんこ病・疫病・灰色かび病にも適用あり
		アミスターオプティフロアブル ※1	11・M5	1000倍			●	4回	疫病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		シグナムWDG	11・7	2000倍			●	2回	うどんこ病・灰色かび病にも適用あり
		ブリザード水和剤 ※1	27・M5	1200倍			●	3回	疫病にも適用あり
	うどんこ病	ベルコートフロアブル ※3	M7	2000倍	散布	前日	○	3回	すすかび病・灰色かび病・葉かび病にも適用あり
		ファンベル顆粒水和剤 ※2 ※3	11・M7	1000倍			●	3回	灰色かび病・葉かび病・すすかび病にも適用あり
		パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍			●	2回	
	灰色かび病	アフェットフロアブル	7	2000倍	散布	前日	○	3回	うどんこ病・葉かび病・すすかび病にも適用あり
		フルピカフロアブル	9	2000倍			○	4回	
		ピクシオDF	17	2000倍			●	4回	
		ファンタジスタ顆粒水和剤 ※2	11	2000倍			●	3回	すすかび病・葉かび病・斑点病にも適用あり
	オオタバコガ トマトサビダニ ミカンキイロアザミウマ	ゲッター水和剤	1・10	1000倍	散布	前日	●	5回	葉かび病にも適用あり
		アニキ乳剤	6	2000倍			-	3回	コナジラミ類・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類にも適用あり
	オオタバコガ	コテツフロアブル(劇)	13	2000倍	散布	前日	-	3回	ナミハダニ・トマトキバガにも適用あり
		マッチ乳剤	15	2000倍			-	4回	コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ(3000倍)・ハモグリバエ類(1000倍)にも適用あり
		フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍			散布	前日	-
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5	5000倍	散布	前日	-	2回	オオタバコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	トランスフォームフロアブル	4C	2000倍	散布	前日	-	2回	トマトサビダニにも適用あり
ウララDF		29	2000倍	-			3回	ミカンキイロアザミウマにも適用あり	
コルト顆粒水和剤		9B	4000倍	-			3回		
チェス顆粒水和剤		9B	5000倍	-			3回		
着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	トマトーン	-	20℃以上 100倍 20℃以下 50倍	1花房で3~5花位 開花した時期 1花房あたり1回					
空洞果防止	ジベレリン液剤、粉末	-	10ppm 1花房あたり5ml	開花時花房散布 (1花房あたり1回)			トマトーンと併用する ※「ジベレリン錠剤」は登録が無いため、使用しないこと。		

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ダコニール1000、アミスターオプティフロアブル、ブリザード水和剤は同一成分(TPN)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※2 ファンベル顆粒水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤は同一成分(ピリベンカルブ)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※3 ファンベル顆粒水和剤、ベルコートフロアブルは同一成分(イミノクタジン)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※マルハナバチを使用する場合は、農業散布後の安全日数クリアを確認してからハウス内に放し飼いのする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生を予察して、適期防除に努める。

展着剤	展着剤名	適用農薬名	使用量	説明
スカッシュ		殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100ml	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤	薬剤名	RACコード	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
ザクサ液剤		10	一年生雑草	10a当り300~500ml (水量100~150ℓ)	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は昼間処理)

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 ミニトマト 病害虫防除基準

JA山形おきたま トマト振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 回数	使用 回数	注意事項		
育苗期	苗立枯病	バンタック水和剤75	7	1000倍 3ℓ/m ² 土壌灌注	は種時～ 子葉展開時	○	1回			
	アザミウマ類	※ 生育期『オオタバコガ・トマトサビダニ・アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類』防除薬剤欄をご参照下さい。								
育苗期 後半	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 トマトキバガ	ベリマークSC	28	25ml/400株 灌注	育苗期後半 ～定植当日	-	1回	<使用例> 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。		
定植前	土壌線虫	※ 8ページ『土壌線虫』防除らんをご参照下さい。								
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	-	1回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 マルハナバチ利用の場合は使用しない。		
		モスピラン粒剤	4A	1g/株 植穴土壌混和		-	1回			
生育期	疫病	ホライズンドライブフロアブル	27・11	1500倍	散布	前日	●	3回	葉かび病(2500倍)にも適用あり	
		ランマンフロアブル	21	1000倍			●	4回		
	葉かび病 すすかび病	ベルコートフロアブル	M7	4000倍	散布	前日	○	2回	うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり	
		ダコニール1000 ※3	M5	1000倍			○	2回		疫病・うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		アミスターオブティフロアブル ※3	11・M5	1000倍			●	2回		
		トリフミン水和剤 ※1	3	3000倍			●	5回		
		シグナムWDG ※2	11・7	2000倍			●	2回		うどんこ病・灰色かび病にも適用あり
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11	3000倍			●	3回		
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 ※1	U6・3	2000倍	散布	前日	●	2回		
	灰色かび病	アフェットフロアブル	7	2000倍	散布	前日	○	3回	うどんこ病・葉かび病・すすかび病・斑点病・菌核病にも適用あり	
		フルピカフロアブル	9	2000倍			○	4回		
		カンタスドライブフロアブル ※2	7	1500倍			○	3回		葉かび病にも適用あり 葉害防止のため展着剤を加用しない
		ピクシオDF	17	2000倍			●	4回		
	斑点病	ロブラール水和剤	2	1000倍	散布	前日	●	3回	灰色かび病にも適用あり ※耐性菌出現防止のため、連用は避ける。	
	オオタバコガ トマトサビダニ ミカンキイロアザミウマ	アニキ乳剤	6	2000倍	散布	前日	-	3回	コナジラミ類・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類にも適用あり	
コテツフロアブル(劇)		13	2000倍	-			3回	ナミハダニ・トマトキバガにも適用あり		
マッチ乳剤		15	2000倍	-			2回			コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ(3000倍)にも適用あり
オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍	散布	前日	-	2回	ハスモンヨトウ・トマトキバガにも適用あり		
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5	5000倍	散布	前日	-	2回	オオタバコガ・ハモグリバエ類にも適用あり		
アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤	4A	2000倍	散布	前日	-	3回	ハモグリバエ類にも適用あり		
	トランスフォームフロアブル	4C	2000倍			-	2回		トマトサビダニにも適用あり	
	チエス顆粒水和剤	9B	5000倍			-	3回			
	ウララDF	29	2000倍			-	3回		ミカンキイロアザミウマにも適用あり	
着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	トマトーン	-	20℃以上 100倍 20℃以下 50倍	開花前3日～ 開花後3日位 1花につき1回						

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※1 トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一成分(トリフルミゾール)を含むため、総使用回数は5回以内とする。
- ※2 シグナムWDG、カンタスドライブフロアブルは同一成分(ポスカリド)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
- ※3 ダコニール1000、アミスターオブティフロアブルは同一成分(TPN)を含むため、総使用回数は2回以内とする。
- ※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
- ※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予防を実施し適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説明
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100ml	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬剤名	RACコード	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
ザクサ液剤	10	一年生雑草	10a当り300～500ml (水量100～150ℓ)	雑草莖葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は陸間処理)

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 ハウスメロン 病害虫防除基準

JA山形おきたま メロン振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収獲まで)	効果 回数	使用 回数	注意事項
床土準備	つる割病	クロルピクリン錠剤(劇)	8B	1袋/(30cm×30cm)1穴 土壌くん蒸	播種前 床土1回	○	1回	床土を30cmの高さに積み30×30cm毎に1袋/1穴処理する。被覆を取り除いて5~7日後に切り直しを行いガス抜きを行う。
ハウス準備	黒点根腐病・つる割病	ガスタード微粒剤(劇)	8F	30kg/10a 土壌混和	定植 21日前	○	1回	土壌消毒は土壌を耕起整地した後、本剤の所定量を均一に散布して深さ15~25cmに土壌と十分混和し、7~14日間ビニール等で被覆する。2回以上耕起し、ガス抜きを行う。散布後21日以上経ってから作付けする。
	ネコフセンチュウ	ネマキック粒剤	1B	20kg/10a 全面土壌混和	定植前	-	1回	
育苗期	斑点細菌病 べと病	ジマンダイセン水和剤 ※2	M3	600倍	散布 7日前	○	5回	
	アブラムシ類	マラソン乳剤	1B	2000倍	散布 前日	-	3回	ハダニ類、ウリハムシ(1000倍)にも適用あり。
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ベストガード粒剤	4A	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	-	1回	※加処理の際、規程量をきちんと計量し処理する。
活着後	つる枯病・べと病 うどんこ病	ダコニール1000 ※1	M5	1000倍 700倍	散布 3日前	○	5回	「ダコニール1000」は運用すると茎葉が硬化するため注意する。
	つる枯病 菌核病	ロブラール水和剤	2	1000倍	散布 前日	○	4回	
	アブラムシ類 ハダニ類	モベントフロアブル	23	2000倍	散布 前日	-	3回	
生育前期 (交配前)	うどんこ病	フルピカフロアブル	9	3000倍	散布 前日	○	4回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	ウララDF	29	2000倍	散布 前日	-	2回	訪花昆虫に対する安全性高い。
	ハダニ類	ダニサラバフロアブル	25A	1000倍	散布 前日	-	2回	
	ウリノメイガ	アフーム乳剤	6	2000倍	散布 前日	-	2回	※発生時に単用散布する。
生育後期 (交配後)	うどんこ病 つる枯病 べと病	テーク水和剤 ※2	※4 3・M3	600倍	散布 7日前	●	5回	
	斑点細菌病 つる枯病 炭そ病 べと病	ジマンダイセン水和剤 ※2	M3	600倍	散布 7日前	○	5回	
	うどんこ病 胞疫病	トリフミン水和剤 ※3	※4 3	3000倍	散布 前日	●	5回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤	4A	4000倍	散布 前日	-	3回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	コルト顆粒水和剤	9B	4000倍	散布 前日	-	3回	
ネット発生 盛期	うどんこ病	ケンジャフロアブル	7	1500倍	散布 前日	○	3回	つる枯病にも適用あり
	うどんこ病	カリグリーン	NC	800倍	散布 前日	●	-	
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 ※3	※4 U6・3	2000倍	散布 前日	●	2回	※幼苗期に使用しない。(濃緑化症状及び生育抑制を生じる場合がある。)
	ウリノメイガ	スピノエース顆粒水和剤	5	5000倍	散布 前日	-	2回	アザミウマ類、ハモグリバエ類にも適用あり ※発生時に単用散布する。
ネット発生 後期	つる枯病 べと病	プロボーズ顆粒水和剤 ※1	40・M5	1000倍	散布 3日前	●	5回	
	コナジラミ類 アザミウマ類	スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍	散布 3日前	-	2回	
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	20D	1000倍	散布 前日	-	1回	※発生時に単用散布する。
成熟期	アブラムシ類 ウリノメイガ	オリオン水和剤40(劇)	1A	1000倍	散布 前日	-	5回	
	ウリノメイガ	アフーム乳剤	6	2000倍	散布 前日	-	2回	※発生時に単用散布する。
収穫前	※収穫日が予定より早い場合を想定し、余裕をもって薬剤散布を打ち切る。							

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ダコニール1000、プロボーズ顆粒水和剤は同一成分(TPN)を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※2 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分(マンゼブ)を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※3 トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一成分(トリフルミソール)を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※4 テーク水和剤、トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一系統(RACコード:3(EBI剤))であり、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予防を実施し適期防除に努める。

※抵抗性品種(えそ斑点病対策)の導入を図る。また、発病株は早期に抜き取り適切に処分する。

展着剤

適用農薬名	展着剤名	使用量	説明
殺菌剤・殺虫剤	アピオン-E	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。保護殺菌剤・予防剤加用で効果。
殺菌剤・殺虫剤	アブローチBI	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性があり加用する農薬の薬害が少ない。治療型殺菌剤への加用効果大。
殺菌剤・殺虫剤	スカッシュ	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させることで果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

適用雑草名	薬剤名	RACコード	使用量(散布液量)	使用方法	使用時期	使用回数	注意事項
一年生雑草	クレマート乳剤	3	10a当り200~400mℓ (水量100~150ℓ)	全面土壌散布	定植・マルチ前 (雑草発生前)	1回	多年生雑草・キク科・ツクサには効果が劣る。
一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300~500mℓ (水量100~150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫30日前まで (雑草生育期:定植前又は畦間処理)	2回	散布液が作物へ飛散しないように注意する。

【令和6年1月1日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 ねぎ 病害虫防除基準

JA山形おきたま ねぎ振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RAOコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項
育苗期 ～生育期	べと病・黒斑病	ダコニール1000 ※1	M5	1000倍 散布	14日前	○ 3回	
育苗期後半 ～定植当日	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ジュリボフロアブル	28・4A	200倍 灌注	育苗期後半 ～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ箱またはペーパーポット1箱 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L タマネギバエ・タネバエ・ネギリムシ類・ネギダニ類にも適用あり ※葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。
定植前日 ～定植時	アザミウマ類 ハモグリバエ類 タネバエ・ネギコガ	スタークル顆粒水溶剤	4A	50倍 灌注	定植前日 ～定植時	1回	セル成型育苗トレイ箱またはペーパーポット1箱 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L
定植時	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ベストガード粒剤	4A	6kg/10a 植溝処理土壌混和	定植時	1回	葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。
	ネギリムシ類	カルボス微粒剤F(劇)	1B	6kg/10a 土壌表面散布土壌混和処理	播付時	1回	
軟腐病		オリゼメート粒剤	P2	6kg/10a 株元散布	30日前	○ 2回	土寄せ時に使用する。(土寄せ前に株元散布した後、土寄せを行う。)
		クプロシールド	M1	1000倍	前日	○ 1回	べと病にも適用あり
		バリダシン液剤5	U18	500倍	前日	○ 2回	白絹病(株元散布)にも適用あり
		スターナ水和剤 ※2	31	2000倍	7日前	○ 3回	
		カセット水和剤 ※3	31・24	1000倍	14日前	● 2回	
		カスミンボルドー ※3	24・M1	1000倍	14日前	● 2回	
		ユニフォーム粒剤 ※4	11・4	9kg/10a	株元土壌混和	土寄せ時 4・5日前	○ 1回
べと病		ジマンダイゼン水和剤 ※5	M3	600倍	14日前	○ 3回	黒斑病・さび病にも適用あり
		ヨネポン水和剤	M1	500倍	7日前	○ 4回	さび病・黒斑病・軟腐病にも適用あり ※薬剤の使用は農書の恐れがあるので注意。
		プロボース顆粒水和剤 ※1	40・M5	1000倍	14日前	● 3回	葉枯病にも適用あり
		ザンプロDMフロアブル	45・40	1500倍	14日前	● 3回	
		アリエッティ水和剤	P7	800倍	3日前	● 3回	
黒斑病	ロブラール水和剤	2	1000倍	散布	14日前	● 3回	
さび病		テーク水和剤 ※5	3・M3	600倍	14日前	○ 3回	べと病・黒斑病・葉枯病にも適用あり
		アフェットフロアブル	7	2000倍	前日	○ 2回	黒斑病・小葉狭葉軟腐病・白絹病・葉枯病にも適用あり
		オンリーワンフロアブル	3	1000倍	14日前	● 3回	黒斑病にも適用あり
		サブロール乳剤	3	1000倍	前日	● 5回	
	べと病・さび病・黒斑病・黄斑病・葉枯病	アミスター20フロアブル ※4	11	2000倍	散布	3日前	● 4回
アザミウマ類	ファインセーフフロアブル(劇)	34	2000倍	散布	3日前	2回	ネギハモグリバエにも適用あり
	ブリロツン粒剤オメガ ※6	28	6kg/10a	株元散布	前日	3回	ハモグリバエ類にも適用あり ※ジュリボフロアブル、ブリロツン粒剤オメガ、ベネビアODは同一成分とみなし抵抗性害虫出現防止のため適用は避ける。
ネギハモグリバエ ネギアザミウマ	ダントツ粒剤	4A	6kg/10a	株元散布	3日前	4回	ネギダニ類にも適用あり
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	9B	2000倍	散布	3日前	3回	アブラムシ類にも適用あり
	アグロスリン乳剤(劇)	3A	2000倍	散布	7日前	5回	アザミウマ類・ネギハモグリバエ・ネギコガにも適用あり シロイチモジヨトウ(1000倍)にも適用あり
	ブレオフロアブル	UN	1000倍	散布	3日前	4回	ネギアザミウマにも適用あり
	アニキ乳剤	6	1000倍	散布	3日前	3回	ネギアザミウマ・ネギコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
	ディアナSC	5	2500倍	散布	前日	2回	アザミウマ類・ネギハモグリバエ・ネギコガにも適用あり
アザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ	プロフレアSC	30	2000倍	散布	前日	3回	ネギコガ・ネギハモグリバエにも適用あり
	グレーシア乳剤	30	2000倍	散布	7日前	2回	ネギコガにも適用あり
ネギアザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ	ベネビアOD ※6	28	2000倍	散布	前日	3回	※ジュリボフロアブル、ブリロツン粒剤オメガ、ベネビアODは同一成分とみなし抵抗性害虫出現防止のため適用は避ける。
ネダニ類	トクテオン乳剤	1B	2000倍	株元灌注	7日前	3回	希釈液を1㎡当たり3株元灌注する。

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※1 ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤は同一成分(TPN)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
- ※2 スターナ水和剤、カセット水和剤は同一成分(オキソリニク酸)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
- ※3 カセット水和剤、カスミンボルドーは同一成分(カスガマイシン)を含むため、総使用回数は2回以内とする。
- ※4 ユニフォーム粒剤、アミスター20フロアブルは、同一成分(アゾキシストロビン)を含むため、耐病菌出現防止のため適用は避け、総使用回数は粒剤は1回以内、水和剤は4回以内とする。
- ※5 ジマンダイゼン水和剤、テーク水和剤は同一成分(マンゼブ)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
- ※6 ブリロツン粒剤オメガ、ベネビアODは同一成分(シアントラニリポール)を含むため、総使用回数は4回以内(但し、定植後の処理は3回以内)とする。
- ※使用回数を超える薬剤の1作期における最高散布回数です。
- ※病害虫の発生防止には耕作的・物理的防除を行います。また発生を予測して、適期防除に努めましょう。

根粒剤

適用農薬名	農薬剤名	使用量	説明
殺菌剤・殺虫剤	ワイドコート	散布液100ℓ当り33mℓ	薬剤をムラなく拡げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。 少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。
殺菌剤・殺虫剤	アピオン-E	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし固着性に優れ、雨前散布や保護剤散布に。
殺菌剤・殺虫剤	アブローチBI	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性に優れ、治療効果がある殺菌剤や殺虫剤散布に。
殺菌剤・殺虫剤	ミックスパワー	散布液100ℓ当り33mℓ	湿展性・浸透性に優れ、均一付着により汚れ少ない。殺菌剤の降雨間散布に。 ※使用回数3000倍を守る。

除草剤

時期	適用雑草名	薬剤名	RAOコード	使用量(散布液量)	使用方法/使用時期/使用回数	注意事項
定植前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り200～500mℓ (水量50～100ℓ)	雑草茎葉散布 耕起前又は定植5日前まで	3回 少量散布の散布量(5～50ℓ)/10a
定植後	一年生雑草	ゴーゴーサン細粒剤F	3	4～6kg/10a	全面土壌散布 定植後(雑草発生前)	1回 ユツクサ、キク科には効果が劣る。
		ゴーゴーサン乳剤	3	10a当り200～300mℓ (水量70～100ℓ)	但し、定植10日後まで	1回 同一成分のためどちらか1回のみ使用のこと。
一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布 収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)	2回 作物に飛散しないように注意する。	
一年生雑草	ロロックS	5	10a当り100～150g (水量70～150ℓ)	畦間土壌散布 定植後(雑草発生前)	1回 但し、収穫30日前まで	
一年生イネ科雑草 (草刈り機で除去)	ナブ乳剤	1	10a当り150～200mℓ (水量100ℓ)	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫30日前まで	1回 ・イネ科作物には農書の恐れがあるので注意する。 ・選別時に枯死するまでに7～10日必要。 ・広葉雑草及びヤツリウグサ、スズメカタビラに効果が ない。	

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 アスパラガス 病害虫防除基準

JA山形おきたま アスパラガス振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項		
生育期	茎枯病 斑点病 褐斑病	ベルコート水和剤 ※2	M7	1000倍	散布	7日前 ○ 5回	○茎枯病 病原菌は、被害植物上に形成された柄子殻で越冬し、翌年気温が上昇すると共に胞子を形成し飛散・伝染する。特に収穫後の株葉成生に発生し、降雨が多いと多発する。被害葉葉は集めて焼却し、圃場に残渣を残さず処分する。また、罹病葉を刈り取る時は低刈りとする。 茎枯病は、予防防除の徹底が重要となっており、立茎開始から3～6日間隔で防除を行なう。 ○斑点病 茎や葉に発生し、赤褐色で楕円形の小型病斑が形成され、やがて灰褐色に退色する。病斑が茎や葉を取り囲むとその上部は枯死して落葉する。立茎時期から感染するが、発生が増大するのは8月中旬以降の秋雨時である。 ○褐斑病 病斑は斑点病とほとんど同じで判別が難しい。褐斑病は病斑がすむと病斑中心部に黒色の粒点が密生する。斑点病と同様に、罹病した落葉は次年度の伝染源となるため、なるべく圃場から除去する。 アミスター20フロアブルは薬害の恐れがあるため、高温期の散布を避ける。 ※ファンタジスタ顆粒水和剤とアミスター20フロアブルは、同一成分とみなし、適用を避ける。 ※ラリー水和剤とスコア顆粒水和剤は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。		
		ダコニール1000	M5	1000倍		前日 ○ 4回			
		アフェットフロアブル	7	2000倍		前日 ○ 4回			
		コサイド3000	M1	2000倍		前日 ○ 4回			
		アミスター20フロアブル	11	2000倍		前日 ● 4回			
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11	3000倍		前日 ● 3回			
		ロブラール水和剤	2	2000倍		前日 ○ 5回			
	茎枯病 斑点病	Zポルドー	M1	500倍	散布	前日 ○ 4回	アミスター20フロアブルは薬害の恐れがあるため、高温期の散布を避ける。 ※ファンタジスタ顆粒水和剤とアミスター20フロアブルは、同一成分とみなし、適用を避ける。 ※ラリー水和剤とスコア顆粒水和剤は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。		
	茎枯病	ペンレート水和剤	1	2000倍	散布	前日 ● 4回			
	斑点病	ラリー水和剤	3	4000倍	散布	前日 ● 2回	アミスター20フロアブルは薬害の恐れがあるため、高温期の散布を避ける。 ※ファンタジスタ顆粒水和剤とアミスター20フロアブルは、同一成分とみなし、適用を避ける。 ※ラリー水和剤とスコア顆粒水和剤は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。		
	斑点病	スコア顆粒水和剤	3	2000倍	散布	前日 ● 2回			
	軟腐病	スターナ水和剤	31	2000倍	散布	前日 ○ 2回	立茎本数を適正にし、通風を良くすることが重要。 雨天が続き、事前にトロケ症状が観察される場合に散布する。		
	収穫後	ネキリムシ類	ガードベイトA ※1	3A	3kg/10a 株元散布	前日	— 3回	アブラムシ類・カメムシ類・ヨトウムシにも適用あり アザミウマ類・カメムシ類・コナジラミ類にも適用あり オオタバコガ・ヨトウムシ・ハスモンヨトウ・ハダニ類にも適用あり アブラムシ類・カメムシ類・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり アブラムシ類にも適用あり カスミカメムシ類・コナジラミ類にも適用あり アブラムシ類・ジュウシホシクビナガハムシ・コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ・ハダニ類・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり ナメクジ類にも適用あり オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ジュウシホシクビナガハムシ・コナジラミ類・ツマグロアオカスミガキにも適用あり アブラムシ類・オオタバコガ・ハダニ類にも適用あり ネギアザミウマ・オオタバコガ・ヨトウムシにも適用あり オオタバコガ・ヨトウムシ・ハダニ類にも適用あり オオタバコガ・ヨトウムシにも適用あり 同一成分とみなし、適用を避ける	
			アディオン乳剤 ※1	3A	2000倍	前日	— 3回		
		ジュウシホシクビナガハムシ	スタークル顆粒水和剤	4A	2000倍	散布	前日		— 3回
			コテツフロアブル (劇)	13	2000倍	散布	前日		— 2回
			ハダニ類	コロマイト乳剤	6	1000倍	散布		前日
		ネギアザミウマ	ダントツ水溶性	4A	2000倍	散布	前日		— 3回
			ウララDF	29	2000倍	散布	前日		— 3回
			コルト顆粒水和剤	9B	4000倍	散布	前日		— 3回
ハチハチフロアブル (劇)			21A	1000倍	散布	前日	— 2回		
アザミウマ類		グレーシア乳剤	30	2000倍	散布	前日	— 2回		
		ファインセーフフロアブル (劇)	34	2000倍	散布	前日	— 2回		
		リーフガード顆粒水和剤	14	1500倍	散布	前日	— 2回		
		アドマイヤー顆粒水和剤 (劇)	4A	5000倍	散布	前日	— 2回		
カメムシ類		ディーナSC	5	2500倍	散布	前日	— 2回		
		アードント水和剤	3A	1000倍	散布	前日	— 2回		
ハスモンヨトウ	プレオフロアブル	UN	1000倍	散布	前日	— 2回			
	アフーム乳剤	6	2000倍	散布	前日	— 2回			
	フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍	散布	前日	— 2回			
	プレバノンフロアブル5	28	2000倍	散布	前日	— 3回			
カタツムリ類 ナメクジ類	スラゴ	未分類	1g～5g/m ²	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。			
収穫終了後	茎枯病	リゾレックス水和剤	14	500倍	散布	収穫後～茎葉刈取り期まで (収穫14日前)	● 3回		
		ペフラン液剤25 ※2	M7	1000倍	散布	収穫終了後 (冬期まで)	● 5回		
	茎枯病・斑点病	ICポルドー66D	M1	50倍	散布	収穫終了後	○ 1回		

農薬剤 (○予防効果が期待できる。●予防・治療効果が期待できる。)

適用農薬名	農薬剤名	使用量	説明
殺菌剤・殺虫剤	アピオン-E	散布液100ℓ当り100g	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。雨前散布、予防剤加用で効果。
殺菌剤・殺虫剤	アプローチBI	散布液100ℓ当り100g	湿展性・浸透性の効果がある。治療型殺菌剤への加用効果大。
殺菌剤・殺虫剤	スカッシュ	散布液100ℓ当り100g	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。
殺菌剤・殺虫剤	ワイドコート	散布液100ℓ当り20g	薬剤をムラなく拡げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。

時期	適用雑草名	薬剤名	RACコード	使用量 (散布液量)	使用時期/使用回数	使用方法/注意事項
準備	スギナ	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り1500～2000ml (水量50～100ℓ)	収穫前日まで (雑草生育期・畦間処理)	2回 雑草茎葉散布
萌芽前	一年生雑草 (ツクサ科、カタバギ科、クサキ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤	3	10a当り200～300ml (水量100ℓ)	萌芽前又は収穫打ち切り後 (雑草発生前)	1回 全面土壌散布
		クレマート乳剤	3	10a当り200～400ml (水量100～150ℓ)	萌芽前 (雑草発生前)	1回 全面土壌散布
		ロロック	5	10a当り150～200g (水量70～150ℓ)	萌芽前 (雑草発生前～発生始期)	1回 全面土壌散布
		ゴーゴーサン細粒剤F	3	10a当り4～6kg	萌芽前 (雑草発生前)	1回 全面土壌散布
		センコル水和剤	5	10a当り100～150g (水量100ℓ)	萌芽前～萌芽始期 または収穫打ち切り後 (雑草発生前～4、5葉期)	1回 雑草茎葉散布又は全面土壌散布 作物体が地上に見えたら使用できません。
生育期	一年生イネ科雑草 (スズメカサビバを除く)	ナブ乳剤	1	10a当り150～200ml (水量100～150ℓ)	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 (但し収穫前日まで)	1回 雑草茎葉散布又は全面散布
	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500ml (水量100～150ℓ)	収穫前日まで 雑草生育期 (萌芽前又は畦間処理)	2回 雑草茎葉散布

※1 ガードベイトA、アディオン乳剤は同一成分(ベルメトリン)を含むため、総使用回数は3回以内とする。
 ※2 ベルコート水和剤、ペフラン液剤25は同一成分(イミノクタジン)を含むため、総使用回数は5回以内とする。
 ※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
 ※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予防を実施し適期防除に努める。

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 食用菊 病害虫防除基準

JJA山形おきたま 食用菊振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項	
定植時	ネキリムシ類	カルホス微粒剤F(劇)	1B	6kg/10a 土壌表面散布 土壌混和処理	定植時	— 1回		
	アブラムシ類	スタークル粒剤	4A	1g/株 種土混和 (10a当り30kgまで)	定植時	— 1回	マメハモグリバエにも適用あり 2g/株(但し10a当り30kgまで)	
生育期	褐斑病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	30日前	○ 4回 雨よけを設置し、透風を良くし栽培距離は広げる。窒素過多で発生を助長するので適切な施肥を行う。	
	白さび病	ラリー乳剤	3	3000倍	散布	14日前	● 2回	
		ストロビーフロアブル	11	3000倍		3日前	○ 2回	褐斑病・黒斑病にも適用あり
	うどんこ病	イオウフロアブル	M2	500倍	散布	発病前~発病初期	○ —	高温時の散布は葉害の恐れがあるため注意する。
	灰色かび病	アフエツフロアブル	7	2000倍	散布	7日前	○ 2回	白さび病・うどんこ病にも適用あり
		セイブアフロアブル20	12	1000倍		3日前	○ 2回	
	アブラムシ類	アーデント水和剤	3A	1000倍	散布	14日前	— 1回	ハスモヨウ・ハダニ類・カンキイロアザミウマ・ヨウムシにも適用あり 発生初期に使用する。
		モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4A	2000倍		— 2回	アザミウマ類にも適用あり	
		スタークル顆粒水溶剤	4A	3000倍		— 2回		
		ウララDF	29	4000倍		— 2回		
		マラン乳剤	1B	2000倍		3日前	— 2回	
		エコピタ液剤	未分類	100倍		前日	—	●単用散布する ハダニ類・うどんこ病にも適用あり
		トランスフォームフロアブル	4C	2000倍		3日前	— 2回	
	ミカンキイロアザミウマ	ベストガード粒剤	4A	2g/株	株元散布	前日	— 2回	アブラムシ類・マメハモグリバエにも適用あり
		カスケード乳剤	15	2000倍	散布	7日前	— 2回	マメハモグリバエにも適用あり
		コテツフロアブル(劇)	13	2000倍		3日前	— 2回	オオタバコガ・ハダニ類・ヨウムシ類にも適用あり
		スピノエース顆粒水和剤	5	1万倍		前日	— 2回	ハモグリバエ類・オオタバコガにも適用あり 同一成分とみなし、適用を避ける
	アザミウマ類	ディアナSC	5	2500倍		散布	14日前	— 1回
		アフーム乳剤	6	2000倍	7日前		— 2回	
		バイスロイドEW(劇)	3A	3000倍	3日前		— 1回	アブラムシ類・オオタバコガ・ハスモンヨウモ・ヨウムシにも適用あり
アグロスリン乳剤(劇)		3A	1500倍	7日前	— 2回			
ハモグリバエ類	トリガード液剤	17	1000倍	散布	7日前	— 2回		
ハダニ類	スターマイトフロアブル	25A	2000倍	散布	7日前	— 1回		
	ダニサラバフロアブル	25A	1000倍		3日前	— 2回	同一成分とみなし、適用を避ける	
	コロマイト水和剤	6	2000倍		前日	— 1回		
	アカリタッチ乳剤	UNE	2000倍		—	—	うどんこ病にも適用あり ※高温時の散布は葉害の恐れがあるため注意。	
オオタバコガ	デルフィン顆粒水和剤	11A	1000倍	散布	前日	—	発生初期に使用する。	

・ハウス開口部には防虫ネットを設置し、ハウス内と周辺の除草を行い、スポット的に害虫が発生した場合は早期に寄生葉を除去する。
・紫外線カットフィルムを利用する。(ただし紫色品種には使用しない)

土壌消毒剤 (○予防効果が期待できる、●予防・治療効果が期待できる。)

薬剤名	RACコード	対象病害虫	使用量(散布量)	使用時期/使用回数	使用方法
ガスタード微粒剤(劇)	8 F	センチュウ類 (※レシウムを除く) 萎凋病 半身萎凋病 青枯病	30kg/10a	定植21日前まで	1回 土壌を耕起整地した後、所定量の薬剤を均一に散布して深さ15~25cmに土壌と十分混和する。混和後ビニール等で被覆処理する。7~14日後被覆を除去して少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行う。

薬剤名	RACコード	適用雑草名	使用量	使用方法/使用回数	使用時期
ゴウゴウサン乳剤	3	一年生雑草	10a当り200~400ml (水量70~150l)	全面土壌散布	1回 定植前(雑草発生前)
バスタ液剤	10	一年生雑草	10a当り300~500ml (水量100~150l)	雑草茎葉散布	2回 定植前(雑草生育期)、収穫14日前まで(畦間処理:雑草生育期)

※「食用ぎく」と「きく」は農薬登録が異なるので、それぞれの登録内容をしっかりと確認して使用しましょう。
※使用回数は親株から挿し穂を採取した時から収穫終了までの回数です。
※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施しましょう。また発生予察を実施して、適期防除に努めましょう。
【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 たらんき 病害虫防除基準

JJA山形おきたま 特産野菜振興部会 促成山菜部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項	
伏込時	立枯疫病	ユニフォーム粒剤	11・4	20kg/10a 土壌表面散布	収穫終了後~発病前 (収穫60日前まで)	○ 2回	苗の場合は種え付け後~発病前(但し、収穫60日前まで。排水不良地に発生するため、圃場の排水をよくする。	
	そうか病	ストロビーフロアブル	11	2000倍	散布	75日前	○ 2回 ※ユニフォーム粒剤とストロビーフロアブルは同一成分とみなし、適用を避ける。総使用回数は2回以内とする。	
	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブソウムシ	スミチオン乳剤	1B	100倍	樹幹散布	3~5月 株養成期	— 2回	
	センノカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4A	2000倍	散布	45日前	— 3回	
	ハダニ類	コテツフロアブル(劇)	13	2000倍	散布	90日前	— 2回	
伏込時	萌芽促進	ジベレリン液剤	—	50ppm	駒木散布	伏込時	— 1回	使用液量(100~200ml/m ²) ※ジベレリン錠剤は登録が無いため、使用しないこと。
		ジベレリン粉末	—	—	—	—	—	

除草剤 (○予防効果が期待できる、●予防・治療効果が期待できる。)

薬剤名	RACコード	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法/使用回数	使用時期
ロックス	5	一年生雑草	10a当り100g (水量70~150l)	畦間土壌散布	2回 中耕・培土後(雑草発生前)
バスタ液剤	10	一年生雑草	10a当り300~500ml (水量100~150l)	雑草茎葉散布	3回 収穫45日前まで(雑草生育期 植付前又は畦間処理)

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。
※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施しましょう。また発生予察を実施して適期防除に努めましょう。
※「収穫」とは「種木を収穫すること」を指す。
【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 かぼちゃ 病害虫防除基準

JJA山形おきたま 特産野菜振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項	
作付前	ネキリムシ類 ケラ	ダイアジノン粒剤5	1B	6kg/10a 全面土壌混和又は 作葉土壌混和	は種時又は 定植時	2回	コガネムシ類(幼虫)にも適用あり(収穫21日前まで)	
定植時	アブラムシ類	モスピラン粒剤	4A	1g/株 植穴土壌混和	定植時	1回		
生育期	疫病・べと病	ジマンダイセン水和剤	M3	600倍	散布	21日前	○ 2回	炭そ病・つる枯病にも適用あり 疫病は、排水不良地で発生が多くなるため排水対策を徹底する。
		アリエッティ水和剤	P7	400倍		前日	● 3回	
	べと病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	7日前	○ 3回	うどんこ病にも適用あり
	アブラムシ類	スミチオン乳剤	1B	1000倍	散布	14日前	○ 3回	アザミウマ類にも適用あり
		モスピラン顆粒水和剤(劇)	4A	2000倍		前日	○ 2回	
	ハスモンヨトウ	アグロスリン乳剤(劇)	3A	2000倍	散布	前日	○ 5回	アザミウマ類・アブラムシ類にも適用あり
	うどんこ病	ベルコート水和剤 ※1	M7	1000倍	散布	7日前	○ 4回	
ベフドー水和剤 ※1		M1・M7	500倍	○ 4回			疫病にも適用あり	
パンチョTF顆粒水和剤		U6・3	2000倍	● 2回				
	ストロビーフロアブル	11	3000倍		前日	● 3回	べと病にも適用あり	

除草剤 (○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

時期	適用雑草名	薬剤名	RACコード	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り200~500ml(水量50~100l)	雑草茎葉散布	1回	耕起前まで(雑草生育期)
マルチ前	一年生雑草	クレマト乳剤	3	10a当り200~400ml(水量100~150l)	全面土壌散布	1回	定植・マルチ前(雑草発生前)
生育期	一年生雑草	バスタ液剤	10	10a当り300~500ml(水量100~150l)	雑草茎葉散布	2回	収穫30日前まで (雑草生育期定植前又は畦間処理)

※1 ベルコート水和剤、ベフドー水和剤は同一成分(イミノクダジン)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 なす 病害虫防除基準

JJA山形おきたま 特産野菜振興部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項	
定植前	半蒴萎凋病	ガスタード微粒剤(劇)	8F	20~30kg/10a 土壌混和	定植21日前まで	○ 1回	土壌を耕起整地した後、所定量の薬剤を均一に散布して深さ15~25cmに土壌と十分混和する。混和後ビニール等で被覆処理する。被覆しない場合は鍍ん散水してガスの蒸散を防ぐ。被覆後7~14日に被覆を除去し、少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行い、散布後21日以上経ってから作付する。	
定植時	ネキリムシ類	カルホス粉剤	1B	6kg/10a 土壌表層散布土壌混和	植付時	○ 2回		
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	4A	1g/株 植穴処理土壌混和	定植時	○ 1回	茎葉、根に薬剤が直接ふれないように注意する。	
生育期	半蒴萎凋病	ベンレート水和剤	1	500倍	散布	定植後~ 収穫14日前まで	○ 3回	希釈液を株当り200~300ml株元かん注する。
				2000倍		前日	●	
	褐色腐敗病	ホライズンドライフフロアブル	27・11	2500倍	散布	前日	○ 3回	高畦栽培を行い、排水を図る。 湿度の高い時に発生し易い。近年、発生が見受けられるので注意する。
		ランマンフロアブル	21	2000倍			○ 4回	
	灰色かび病	ダコニール1000	M5	1000倍	散布	前日	○ 4回	うどんこ病・黒枯病・すすかび病にも適用あり
		ベルコートフロアブル	M7	2000倍			○ 3回	うどんこ病・黒枯病・すすかび病にも適用あり
	うどんこ病	ロブラール500アクア	2	1000倍	散布	前日	○ 4回	
		パンチョTF顆粒水和剤	U6・3	2000倍			● 2回	
	うどんこ病	アミスター20フロアブル	11	2000倍	散布	前日	● 4回	すすかび病にも適用あり
		マイトコネフロアブル	20D	1000倍			○ 1回	高温乾燥の時に発生が多くなるので注意する。
	ハダニ類	コテツフロアブル(劇)	13	2000倍	散布	前日	○ 4回	オオタバコガ・チャノホリダニ・テントウムシダマシ類・ハスモンヨトウ・ミカンキイロアザミウマ・ヨトウムシにも適用あり
		カネマイトフロアブル	20B	1000倍			○ 1回	ハダニ類にも適用あり
	チャノホリダニ	コロマイト乳剤	6	1500倍	散布	前日	○ 2回	※コロマイト乳剤:水なすには使用しない。(薬害の恐れあり) ハダニ類・ハモグリバエ類・コナジラミ類にも適用あり
アフーム乳剤		6	2000倍	○ 2回			アザミウマ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ハダニ類・ハモグリバエ類・コナジラミ類にも適用あり	
アブラムシ類	スミチオン乳剤	1B	1000倍	散布	前日	○ 5回	収穫期には使用しない。	
	ダントツ水和剤	4A	2000倍			○ 3回	コナジラミ類・ハモグリバエ類・カメムシ類にも適用あり	
	アグロスリン乳剤(劇)	3A	2000倍			○ 5回	オンシツコナジラミにも適用あり	
オオタバコガ	コルト顆粒水和剤	9B	4000倍	散布	前日	○ 3回	カスミカメムシ類・コナジラミ類にも適用あり	
	トルネードエースDF	22A	2000倍			○ 2回	ハスモンヨトウにも適用あり	
コナジラミ類	フェニックス顆粒水和剤	28	2000倍	散布	前日	○ 3回	ハスモンヨトウにも適用あり	
	チェス顆粒水和剤	9B	5000倍			○ 3回	アブラムシ類にも適用あり	

展着剤 (○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

展着剤名	適用農薬名	使用量	説明
アプローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100l当り100ml	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100l当り100ml	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

時期	適用雑草名	薬剤名	RACコード	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	9	10a当り200~500ml(水量50~100l)	雑草茎葉散布	2回	耕起前まで(雑草生育期)
定植前	一年生雑草	クレマト乳剤	3	10a当り200~400ml(水量100~150l)	全面土壌散布	1回	定植前又は定植・マルチ前(雑草発生前)
生育期	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300~500ml(水量100~150l)	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予察を実施し適期防除に努める。

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 キャベツ 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会キャベツ部会

時期	対象病害虫	薬剤名	RACコード	使用方法	使用時期 (収穫迄)	効果	使用回数	注意事項		
育苗期	べと病	ダコニール1000	M5	1000倍 散布	14日前	○	2回			
	アオムシ・コナガ アブラムシ類	アグロスリン水和剤(劇)	3A	1000倍 散布	7日前	—	5回	アザミウマ類・タマナギンウワバ・ヨトウムシにも適用あり		
	アオムシ アブラムシ類・コナガ ネギアザミウマ ハイマダラノメイガ ヨトウムシ	ジュリボフロアブル	28・4A	200倍 灌注	育苗期後半 ～定植当日	—	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5～4ℓ)当たり0.52 ジュリボフロアブル・フェニックス顆粒水和剤・プレバソフロアブルは、同一成分とみなし、抵抗性害虫出現防止のため運用を避ける。		
定植前	根こぶ病	オラクル顆粒水和剤	21	500倍 灌注	定植前	○	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約3～4ℓ)当り500ml いずれか1剤を選択し使用する		
		オラクル粉剤	21	30kg/10a 全面土壌混和		○	2回			
		ネビジン粉剤	36	30kg/10a 全面土壌混和		○	2回		菌核病にも適用あり	
生育期	べと病	ジマンダイセン水和剤 ※1	M3	600倍	散布	○	3回	べと病は降雨が比較的多く、気温が低くなる秋あるいは春に発生が多い。		
		ダコニール1000	M5	1000倍		○	2回		育苗期に使用した場合は生育期には1回のみでの使用とする。	
		リドミルゴールドMZ ※1	M3・4	1000倍		●	3回			
	べと病・黒腐病 軟腐病	ヨネポン水和剤	M1	500倍	散布	7日前	○	5回	黒腐病は夏から秋に雨が多きときに出やすい病気。	
	黒腐病・軟腐病 黒斑細菌病	カスミンボルドー ※2	24・M1	1000倍	散布	7日前	●	4回	結球期以降は葉に薬害を生じることがあるので使用しない。	
		カセット水和剤 ※2	31・24	1000倍			●	3回		
	株腐病・黒腐病 軟腐病	バリダシン液剤5	U18	800倍	散布	7日前	●	5回		
	株腐病	モンカットフロアブル40	7	2000倍	散布	7日前	●	4回	株腐病は夏の高湿多湿時に収穫する作型で多く発生。 結球開始期から予防散布をする。	
		アミスター20フロアブル	11	2000倍			●	4回		菌核病にも適用あり
	アオムシ・コナガ アブラムシ類	ダントツ水溶剤	4A	2000倍	散布	3日前	—	2回		
	コナガ アオムシ ヨトウムシ	トクチオン乳剤	1B	1000倍	散布	21日前	—	2回	収穫前使用時期の長いものから使用し、一剤1回の適期使用に努める	
		プレオフロアブル	UN	1000倍		7日前	—	2回		
		トルネードエースDF	22A	2000倍		—	2回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
		トレボン乳剤	3A	1000倍		3日前	—	3回		アブラムシ類にも適用あり
		ディアナSC	5	2500倍		—	2回	アザミウマ類・ウワバ類・オオタバコガ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
プロフレアSC		30	2000倍	—		3回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・オオタバコガ・ハスモンヨトウにも適用あり			
フェニックス顆粒水和剤		28	2000倍	前日		—	3回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・オオタバコガ・ハスモンヨトウにも適用あり		
プレバソフロアブル5		28	2000倍	—		3回	ウワバ類・ハイマダラノメイガ・オオタバコガ・ハスモンヨトウにも適用あり			

(○予防効果が期待できる。●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZは同一成分(マンゼブ)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※2 カスミンボルドー、カセット水和剤は同一成分(カスガマイシン)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予察を実施し、適期防除に努める。

除草剤

時期	対象雑草名	薬剤名	RACコード	使用量	使用方法	使用時期/使用回数	注意事項	
定植前	一年生雑草	クレマート乳剤	3	10a当り200～400mℓ (水量100～150ℓ)	全面土壌散布	定植前 (雑草発生前)	1回	キク科・ツクサには効果が劣る。 抑制期間30日位
定植後	一年生雑草	ラッソー乳剤	15	10a当り150～200mℓ (水量100ℓ)	全面土壌散布	定植8日後まで	1回	アカザ科・タデ科には効果が劣る。 抑制期間20日位 ※夕方以降の散布は避ける。
	一年生雑草	ザクサ液剤	10	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫45日前まで (雑草生育期 定植前 又は畦間処理)	2回	
	一年生イネ科雑草	ナブ乳剤	1	10a当り150～200mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期 (イネ雑草3～5葉期 (収穫14日前まで))	1回	スズメノカタビラを除く。 広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果が期待できない。

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

令和6年度 野菜類に使える主な登録薬剤

JA山形おきたま 野菜振興会

用途	薬剤名	RACコード	対象病害虫等・使用目的	散布時 希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	注意事項		
殺菌剤	微生物剤	インプレッションクリア	うどんこ病・灰色かび病	1000~2000倍	発病前~ 発病初期	—			
		ボトキラー水和剤	うどんこ病・灰色かび病	1000倍		—			
		タフパール	うどんこ病	2000~4000倍		—	トマト・ミニトマトは左記に加え灰色かび病・葉かび病にも適用あり		
		マスタピース水和剤	軟腐病	1000~2000倍		収穫前日 まで	—	かぼちゃ・ズッキーニは軟腐細菌病で適用あり しょうがは腐敗病で適用あり キャベツは左記に加え黒斑細菌病・黒腐病にも適用あり	
		エコシヨット	灰色かび病	1000~2000倍			—		
	銅剤	コサイド3000	M1	褐斑細菌病・黒腐病 軟腐病・斑点細菌病	2000倍	—	—		
		ドイツボルドーA	M1	べと病・軟腐病	500~1000倍	—	—		
		クプロシールド	M1	軟腐病・べと病・斑点細菌病・ナメクジ類	1000倍	—	—	ナメクジ類に対する使用時期は、発生前~発生初期	
		Zボルドー	M1	べと病・黒腐病・軟腐病 褐斑細菌病・斑点細菌病・黒斑細菌病	500倍	—	—	キャベツは褐斑細菌病に適用なし	
	硫黄	イオウフロアブル	IRAC:UN FRAC:M2	うどんこ病	500~1000倍	発病前~ 発病初期	—	すいか・かぼちゃは500倍 いちごは親株床初期500~1000倍、発病前~初期2000倍 トマト・ミニトマトは左記に加えトマトサビダニにも400倍で適用あり(発生初期) ねぎ、あさつき、わけぎは左記に加えさび病にも500倍で適用あり	
		硫黄粉剤50	IRAC:UN FRAC:M2	うどんこ病	3kg/10a		—	—	ハダニ類にも適用あり
	炭酸水素塩	カリグリーン	NC	うどんこ病・さび病・灰色かび病	800倍	収穫前日 まで	—	—	
		ジーファイン水和剤	NC・M1	うどんこ病・軟腐病・白さび病	1000倍		—	—	なすはうどんこ病のみ適用あり
		ハーモメイト水溶剤	NC	灰色かび病・さび病 うどんこ病	800倍 800~1000倍		—	—	
殺虫剤	B T 剤	トアロー水和剤CT	アオムシ・コナガ	1000~2000倍	発生初期 但し 収穫前日 まで	—			
			ヨトウムシ	500~1000倍		—			
		トアローフロアブルCT	アオムシ・コナガ	1000~2000倍		—			
			オオタバコガ	500~1000倍		—			
		エスマルクDF	オオタバコガ・ヨトウムシ	1000倍		—			
			アオムシ・コナガ	1000~2000倍		—			
		デルフィン顆粒水和剤	11A	アオムシ・ハスモンヨトウ・シロイテモジヨトウ オオタバコガ・ウリノメイガ・コナガ		1000倍	—	—	
		エコマスターBT	11A	アオムシ・コナガ オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシ		1000~2000倍 1000倍	—	—	
		ゼンターリ顆粒水和剤	11A	アオムシ・コナガ・ヨトウムシ オオタバコガ・ハスモンヨトウ シロイテモジヨトウ		1000~2000倍 1000倍	—	—	はくさいはアオムシ・コナガ・ヨトウムシのみ2000倍で適用あり ウリ科野菜類は左記に加えウリノメイガにも1000倍で適用あり
	フローバックDF	11A	アオムシ・コナガ オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシ	1000~2000倍 1000倍	—	—			
サブリーナフロアブル	11A	アオムシ・コナガ・ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000倍 500~750倍 500倍	—	—	はくさいはアオムシ・コナガ・ヨトウムシのみ1000倍で適用あり			
物理的阻害	オレート液剤	—	アブラムシ類・コナジラミ類	100倍	発生初期~ 収穫前日まで	—			
殺虫殺菌剤	粘着くん液剤	うどんこ病	100倍	収穫前日 まで	—				
		アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類							
	サンクリスタル乳剤	うどんこ病	300倍				トマト・ミニトマトは左記に加えトマトサビダニにも適用あり なすは左記に加えチャノホコリダニにも適用あり		
		アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類							
	アカリタッチ乳剤	ハダニ類	1000~3000倍					殺菌剤・殺虫剤の展着剤として使用する場合:使用量10ml/散布液10ℓ	
		うどんこ病	2000倍						
エコピタ液剤	アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	100倍	—						
	うどんこ病								
フーモン	アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	1000倍		—					
	うどんこ病								
その他	クレフノン	—			銅水和剤による葉害の軽減	100~200倍	—	—	銅水和剤に混用して散布

※薬剤によって葉害発生の恐れがありますので、散布試験をして事前に葉害の有無を確認して薬剤散布をお願いします。
 ※「とうもろこし」は穀類であるため、「野菜類」で登録された農薬は使用できません。
 「とうもろこし」、「未成熟とうもろこし」、「スイートコーン」に登録のある薬剤を使用下さい。

【令和5年12月6日現在の登録内容に基づいて記載しています。】